

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4392400026
法人名	社会福祉法人 三加和福祉会
事業所名	グループホーム 和楽の里
訪問調査日	平成 21 年 3 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 20 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	4392400026
法人名	社会福祉法人 三加和福祉会
事業所名	グループホーム和楽の里
所在地 (電話番号)	熊本県玉名郡南関町大字久重字坂本3424番地の3 (電 話) 0968-66-6355
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年3月9日

【情報提供票より】(平成21年 3月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月 9日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低 74 歳	最高	98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田尻医院 田尻歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中に、デイサービスセンターに併設して開設し、2年を経過。開設前から地域の中に積極的に入り込んで交流・活動し、地域からの信望・協力を徐々に得ながら地域に根付いてきているところである。毎朝、ホームの職員とデイの職員が他方の施設の利用者に挨拶に出向き、双方の顔を見知っており、交流や協力体制ができています。また、昼時は、入居者が我が家の台所に立つように、自然にエプロンをして食事の準備や後片づけをする姿が見られたり、入居者同士の仲が良く、いきいきと楽しく生活している様子が窺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>隣の人との食事の境がわかりにくかったため、お盆を使用することにより改善している。また、家族会を発足させ、運営推進会議と同日に合会を開いて運営推進会議に参加するなど、活動を始めたところである。グループホーム便りの作成については検討中。ターミナルケアは現時点では行わない予定であり、ホームができることできないことをきちんと説明しているが、本人・家族の意向を確認しながら今後とも検討していくこととしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員で項目を分担して取り組み、回覧・集約して作成している。それぞれ自己のケアを振り返ることにより、新たな気づきが生まれ、改善につなげていく機会となっている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、入居者の状況やホームの活動状況等報告し、委員からは地区の行事や町の催し等の情報を得ており、情報をもとに協力を得ながら地域活動に参加している。運営推進会議で、年末に地域の消防団に夜警巡回をしてもらうことになり、区長が消防団に話を通してくれるなど、協力体制ができています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に、入居者の健康状態や生活状況等詳しく伝えている。また、何でも話しやすい雰囲気ができており、ほとんどの家族が意見・要望等気軽に直接伝えている。家族会も最近立ち上げ、今後の活動が期待される。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム開設前から、地域に受け入れてもらうための地道な努力が徐々に実っており、散歩時には、近隣の方と挨拶や会話を交わしたり、野菜をもらったり、ご近所づきあいがなされている。また、地元行政区に加入し、地域の一員として清掃活動や地域の行事等に積極的に参加している。災害時における消防署や消防団との協力体制もできている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、地域の中でその人らしく、楽しく生き甲斐を持った生活を送れるよう、また地域の一員として地域に貢献できるグループホームを目指すことを理念として掲げており、地域密着型サービスとしての姿勢を明確に謳っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員ミーティングで折に触れ理念について話し、共有化を図っている。また、法人全体の定期的な勉強会で、理念を基本としたサービス内容や接遇などを学び、自己のケアを振り返ることにより、理念の実現に向けての取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一つの家庭として地元行政区に入っており、ゴミ拾い・缶拾い等の清掃活動や夏祭り・どんどや等の行事に積極的に参加している。特に文化祭には実行委員として地域の方と共に運営にも携わり、入居者の作品も出品している。また、散歩時等には近隣の方と気軽に挨拶や会話を交わしたり、自宅で採れた野菜をいただくなど、地域の一員としての近所づきあいが行われている。	○	地域の方を対象に、併設のデイサービス事業所と合同で行った家族介護教室の継続・地域の方々に気軽に相談してもらえる相談事業等、ホームの持つ専門性を地域に還元していきたいとの意欲を持っておられ、今後の活動が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で項目を分担してサービスを点検した後、全員に回覧し、集約・修正して作成している。外部評価は、違う目で気づきやアドバイスを得ることのできる有意義な機会と捉えており、改善の必要なものについては、検討し具体的な改善に取り組んでいる。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、家族代表、町担当職員等をメンバーとして、2カ月に1回開催し、入居者の状況やホームの活動等を報告し、委員から地区の行事や町の催しなどの情報を得ている。12月の運営推進会議で、年末に消防団で夜警巡回をしてもらうことになり、区長が消防団に話を通してくれるなど、協力体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南関町初のグループホームであり、町行政とはホーム開設時から相談や情報交換をしながら取り組んできた経緯があり、担当者との意思の疎通は図られている。日頃から行事案内や情報交換に役場に出かけたり、時には担当者がホームにも来て、様子を見てもらい状況を話す等、ホーム運営にあたっての理解・協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会は多く、来られたときに入居者の健康状態や生活の状況等について細かく報告している。また、一人ひとりのアルバムを作成しており、面会時に見てもらい喜ばれている。その他必要に応じ、電話やFAXでのやりとりも行っている。	○	遠方の家族にも入居者の様子が伝わるよう、行事や日常生活の写真や簡単なコメント等が盛り込まれた、定期的なグループホーム便りの作成・送付が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも気軽に言いやすい雰囲気ができており、要望は直接職員に言われる家族が多い。また、入居者の誕生会や家族参加の行事の際に家族と職員の情報交換を行うなど、積極的に意見を聞く場を作る努力が見られる。最近家族会も立ち上げ、今後の活動が期待される場所である。	○	家族だけでの話し合いができるような場の提供があるとさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の考えとして、グループホームの異動は最小限にしており、十分な引き継ぎができるよう異動日の1か月から2週間前くらいを目途に、新しい職員を配置できるよう努めている。新人職員は、法人本体で介護についての研修を受けた後に配属され、先輩職員がサポートしながら実地研修を行っている。特に入居者とのコミュニケーションが早く取れるように心がけ、入居者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修会を月1回、GHの研修会を月1回実施。外部研修は、必要な研修、職員の希望する研修には積極的に参加させ、サービスの質の向上に努めている。資格取得についても、講習会や試験日等の休暇について、取り組みやすい様配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会には参加していないが、管理者は不定期に他のグループホームを訪問し、情報交換を行っている。また、年1回、先駆的な取り組みを行っているGHの代表者を講師として招き、勉強会を行って質の向上に取り組んでいる。	○	一般の職員が、他のホームの職員と顔見知りになり、気軽に情報交換ができるような機会を設けることも必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にできる限り、本人・家族に来てもらって見学・説明を行ない、ホームからは家庭や現在利用している施設に出かけて顔なじみになり情報収集を行っている。ほとんどの入居者が何らかの形で法人のいずれかの事業所を利用しているため、これまでの事業所担当者と連絡を密に取り、スムーズな入居ができるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多いので、入居者に教えてもらうことも多く、干し椎茸等乾物類の使い方、あくの取り方、巻きずしの巻き方等調理に関することや、浴衣の着方・たたみ方、畑の耕し方など、アドバイスを受けながら行っている。また、おはぎやつるし柿・漬け物など、入居者に教えてもらいながら一緒に作り、共に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から、生活歴・趣味・嗜好・健康状態等基本情報を把握のうえ、早い段階で担当者を決め、入居者とゆっくり会話をし、コミュニケーションをとっている。共に生活していく中で、また、家族とも面会を重ねる中で、徐々に情報を増やしている。ほとんどの入居者がイエス・ノーがはっきりしており、できるだけ自分で決めていただくことを基本とし、意向に沿った暮らしを支えていく日常が展開されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	把握した情報を基に、ケース会議を開いて、本人・家族の意向や医師の意見を踏まえて介護計画を作成し、同意を得ている。それまでの生活感を損なわない、在宅の延長となるような計画で、一人ひとり個性を持ったその人ならではの計画となるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行い、今後の方向性を立て、3か月ごとに計画を見直している。変化が生じた場合はその都度、検討・見直しを行っている。支援経過の中で問題行動は朱書きしたり、大事なことは申し送りノートで情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望に応じて、散歩・買い物・理美容室等への外出支援を行う他、特に自宅(周辺)訪問に力を入れ、馴染みの場所や人との関係継続に努めている。また、非常災害時には地域の避難所として受け入れ可能であることを区長に連絡している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の意向により決定している。受診は基本的に家族同行としており、家族も協力的である。2週間に1回、協力医の往診がっており、夜間・休日でも快く対応してくれたり、家族への説明も丁寧におこなってくれるなど、協力的であり、適切な医療受診の支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では職員の負担が大きく、ターミナルケアは行っていない。本人・家族に対しては、グループホームでできること・できないことを説明しており、重度化した場合は希望を聞きながら、現状では特養や医療機関等への住み替えを行っている。	○	現時点ではホームでの看取りの希望はないということであるが、定期的に本人・家族の意向を確認し、重度化や終末期のホームの対応方針について継続して検討していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者に敬意を払い、丁寧な言葉遣いや視線を合わせた会話、一人ひとりの性格・譲れないところなどをきちんと把握したうえでの対応に心がけている。また、入浴時に1対1でゆっくり個人的な話をするなど、気持ちを通わせる工夫がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れにこだわらず、一人ひとりのペースを大切にケアを行っている。遅く起きたい人は遅く起き、リビングで過ごしたい人はリビングで、部屋に居たい人は部屋で過ごし、レクリエーション等も強制せず、参加したい人が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、母体特養のメニューを基本に、入居者の希望を取り入れて変更するなど、食事を楽しむ工夫がなされている。台所を手伝いたい人は、さっとエプロンをつけて、野菜の皮を剥いたり切ったり、味見をしたり、食後も茶碗洗いをするなど、できる人が自主的に取り組む姿が見られた。テーブルごとにテーブルクロスが敷かれ、中央に水仙の花を飾り、明るく優しい雰囲気の中で、職員は同じテーブルで同じものを、入居者と楽しく談笑しながら食べており、とても和やかな食事風景が見られた。		
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望に応じ、毎日でも対応している。お風呂は1対1でゆっくり話ができる、コミュニケーションの場となっている。お風呂嫌いの人も、少なくとも3日に1回は入浴してもらうよう、工夫している。また、季節に応じ菖蒲や柑橘類等を入れ、心地よい入浴への工夫が見られる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	字の上手な人に、チリ袋に名前を書いてもらったり、裁縫の得意な人に繻い物をしてもらったり、盆栽の手入れの好きな人に観葉植物の葉を拭いてもらったり、食事の準備・後片づけ、洗濯物干し・たたみなど、できること・得意なこと・好きなことを生かせるよう支援している。習字や歌など、趣味や楽しみごとも個々に合わせて取り組んでいる。また、当日の午後は、ホットケーキ作りやカルタ取りなどを楽しむ様子が見られた。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩・買い物や、希望に応じ自宅周辺へのドライブ等行っている。希望者は隣接するデイサービスにもよく参加し、季節の花見や温泉センター・外食に出かけるなど、戸外に出る機会を多く持つよう心がけている。初詣は皆で荒尾の成田山へ行き、大変好評であったとのこと。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけておらず、注意深く見守ることで安全に配慮している。リビングを取り囲む形で居室が配置されており、目が届きやすい造りになっている。夜間は、窓が開くと職員の携帯に通報が入り、職員は警備会社に直通で連絡を取れる体制になっている。また、入居者の顔写真を準備し、緊急時に備えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、隣接するデイサービス事業所と合同での避難訓練を実施。また、職員の夜間招集訓練も行っている。地区消防団が年末に夜警巡回してくれたり、災害時に備え、ホームの内部の造りや避難経路の確認をしてもらったりなど、地域の協力体制が整っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体特養の栄養士が作成したものを基本としており、栄養バランスは取れている。食事・水分の摂取量をチェック・記録しており、必要カロリー・水分量の確保に努めている。摂取不足が見られた場合は医師に相談し、適切に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、天窓が取り付けられ、明るく開放的。天窓はブラインドの操作で夏の暑い陽射しを遮るよう工夫されている。ソファ・テーブル・テレビ・観葉植物等が配置されており、皆が集まりやすい落ち着いた居心地のよい空間である。また、神棚を置いてあり、入居者の心の拠り所となっている。ウッドデッキにはテーブルと椅子が置かれ、天気の良い日はお茶やおしゃべりを楽しむ憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	比較的シンプルな部屋が多いが、各人に合わせ、机・小さなテーブル・本人や家族の写真・孫が書いた絵・時計等置かれ、それぞれに居心地の良い部屋がつけられていた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム和楽の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡南関町大字久重字坂本3424番地3
記入者名 (管理者)	古川 葉子
記入日	平成 21 年 2 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		利用者個人を大切にし、本人の気持ちに沿った生活が送れる様に今後も支援していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		同一敷地内にある認知症対応型通所介護と協力し、地域の方に認知症についての講演を実施しましたが、今後も地域に向けた取り組みを行っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	入居者の散歩や外出時には近所の情報収集も行い、より一層身近に感じて頂ける事業所を作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		事業所全体で参加することも多くなっている。(夏祭り・文化祭・どんどや等)又、地域の方々にグループホームに気軽に来て頂けるような独自の行事等にも取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームが、認知症になっても、安心してその人らしい生活ができる場所としての理解が地域にも徐々に浸透してきており、地元の方々からも近くに来て良かったと言う声が聞かれるようになった。		地域の方々の事業へのさらなる理解に努めていきたい。認知症高齢者に関わる専門性を活かしながら、地域の課題、ニーズにあった相談受付等気軽に相談していただけるよう取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して2年目であり、現在までは定期的な勉強会を通して理念の共有と具体的な業務の改善に取り組んできた。自己評価、外部評価の意義においては職員全員がその意義を理解している。		自らの理念を実践するため、自己評価、外部評価を実施することにより、評価を生かして具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、日常生活状況や心身状況又事故報告やその対策についての報告等を定期的に行っている。各委員の皆様方からの意見、指導を基にサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者においては、各種手続きや行事案内等に出向き、現況報告や情報交換に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所独自では行っていないが、本体施設の全職員勉強会で地域福祉権利擁護事業並びに成年後見制度の勉強会を開催し、参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、理念の共有と実践を基本とし徹底した指導を行っている。又職員個々の利用者への対応を相互観察と相互評価により、虐待防止に努めている。		当事業所での会議時には利用者のケア技術の向上の問題として一緒に虐待防止に関する話し合いを行って虐待防止に対する志気を高めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に従い説明を行い、その中で不安や疑問点を確認し契約を締結し、説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情意見箱を設置しているが、利用者の方は直接職員に訴えられることが多い。内容に応じて検討会を開催し、職員間で共有すると共に、運営推進会議の席又は町担当者との情報交換時において外部者へその情報を公表している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	主に面会時において、細かく現況報告や状態報告を行っているが、特に健康状態について変化があった場合は常に家族に状態報告を行うと共に面会等を促している。金銭管理についても、定期的に面会時に個人毎の出納帳の確認をお願いする等、必要に応じて電話連絡も行っている。	○ 今後は全般的なグループホームでの活動内容や行事等、利用者の皆様の暮らしぶりをご家族へお知らせ出来るよう個々に合わせた報告を行いご家族との連携に繋げていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置と共に、利用者個々の誕生会を始め、家族参加の行事を行った際に家族と職員との情報交換の場を設け、不満や苦情について確認し、意見がある場合は反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体で月1回定期的な職員会議を行い、職員の意見や提案等、現場の責任者が持ち寄った意見を全体で検討している。	その他、運営者、管理者においては月1回法人の経営・処遇会議に参加し、細かく状況報告を行い検討する会議を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に合わせて柔軟な対応ができるよう配慮しているが突発的な状況の変化にあっては、対応が難しいことも懸念される。計画的な業務内容による必要時間帯の職員確保、行事等の人員確保においては体制の調整を行っている。	常勤6名、パート1名にて勤務体制を確保しているが、状況の変化に合わせて柔軟な対応調整が出来るよう、業務内容を精査しながら職員の増員を検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員配置においては利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう配置し、職員の異動の際には十分な引継ぎと利用者との関係作りをする準備期間を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の月1回開催する定期的な勉強会と事業所内での月1回の勉強会、質の高い職員育成に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換は訪問により不定期ではあるが行っており、お互いの状況把握、抱える課題や問題点等情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。	今後は町や同業者への働きかけにより地域密着型サービスのネットワーク作りに取り組み、地域資源を活かしたサービス体系の確立を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は常に職員の健康状態(心身状況)把握に努め、気軽に相談できる環境づくりに努めている。年に2回は個人面談による職員との意見交換の場を設けている。	新入職者に関しては、周囲の職員からの情報を得ながら状況に応じて個人面談を行うようにしており、業務や人間関係でのストレス軽減できるように努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表においては必ず勤務状況と勤務体制の確認を行っている。職員個々の個性と長所を把握し、努力や実績に対する評価を年2回行い、直接職員と面談することで意欲向上につながるよう努めている。又、本人の希望する資格取得や勉強会には積極的に取り組んでいる。	○ 法人全体が個人の希望する資格取得や勉強会には積極的に取り組んでおり今後も出来る限り参加していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでの段階において、御家族やケアマネよりそれまでの生活状況、習慣等をお聞きし、利用後においては職員一人ひとりがそれぞれの利用者の相談員の役割を果たし、初期段階から信頼関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の生活の場をグループホームに移し、安心と信頼の基に利用者・家族が生活できることは、それまでの利用者と家族の信頼関係を維持することにつながるため、相談から利用までの段階において家族との面接時に詳しく家族の相談対応に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談対応の中で、本人と家族が必要としている支援を見極め、地域包括支援センター、行政、介護支援専門員等へ連絡する等対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人を交えた見学説明会や同一敷地内にある法人内他事業所への体験利用等を行い、職員や入居者、環境における馴染みの関係づくりを行い家族と相談しながら勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方の今まで生活してこられた生活観を大切に、その生活スタイルが継続できるよう、環境面や人間関係づくりに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人の心身状況を常に家族と職員が共有し、日々の関わりの中で、職員と家族が一体となって支援していくよう関係づくりに努めている。	○	家族との昼食外出や買い物外出、外泊等家族との事前的な打ち合わせにより実施している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人の家族に対する気持ちや家族のこれまでの関わりを十分把握した上で、本人家族の相互関係がよりよい方向で構築できるよう支援している。		御家族、本人の気持ちを考えたうえで御家族へ状況報告を行う事で今まで同様の家族関係を保てるよう支援していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力しながら、馴染みの方との面会訪問や自宅或いは思い出の場所への外出支援を行っている。		職員が個別外出に同行することにより、さらに親近感が出来、同じ思いを共有することで今後の支援に繋げていくようにする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	地域密着の特性から当グループホームにおいては、以前からの知り合いや近所の方もおられ、利用者同士の関係は極めて良好な状態であるが、利用者個々の性格や生活スタイル等に配慮し、日頃から良好な関係作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、他所への入所者には面会、入院者へは葉書を出したりしている。必要に応じて家族からの相談や担当介護支援専門員との情報交換を行っている。		開設から2年目を迎え、契約終了者は6名である。3名は入院、3名が特別養護老人ホーム入所。行事への招待も状況に合わせて検討していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント、家族からの情報収集を基に、主に担当職員がゆっくり会話をを行い情報収集に努め、他の職員との情報の交換により一人ひとり現状に合わせた支援に努めている。		自己決定を基本としながら、本人の生活スタイルに合わせて日常生活支援を行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、家族からの情報収集を基に、一人ひとりに合わせた支援に努め、これまでの生活の継続につなげている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活状況においては日々日誌に記録し、状態と状況の変化の把握に努めている。又定期的なケース会議により、本人の持っている能力に合わせた介護内容、生活支援が行われているか検討している。		毎日のバイタルチェック等本人の健康状態を把握し、現状に於いて生活能力の活用の場の拡大をケア会議などで話し合いケアプランに反映していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たり、ケース会議を開催し、本人、家族の意向及び主治医の意見書等を反映した計画作成に取り組んでいる。介護計画においては本人又は家族に確認して頂き、確認印を頂いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎のモニタリングによる職員の情報共有化と家族に対する情報提供、又介護計画目標期間時における計画の見直しを行っている。本人の状況、状態に変化ある場合はその都度検討し、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況や個別のADL状況を毎日記録すると共に、申し送りノート等活用しながら情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人グループ事業所の多機能性を活かし、デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ、特別養護老人ホーム等のメニューを持って、利用者の状況、状態に合わせた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて民生委員より助言やアドバイスを頂き、消防においては避難訓練時の利用者、職員へのアドバイス、文化教育機関においては高校生や専門学生の実習場所として、又社会活動参加の一環として文化祭(作品展示等)や町民参加のチャレンジデイへ参加をしている。	○	実習や町民参加のものに対しては入居者全員参加意欲があるため、支援していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーにおいては不定期ではあるが、担当者が出向いたりして情報交換を行っている。現在他のサービスを利用する意向のある利用者はおられず、又現在までそのような事例はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当グループホームにおいては現在、地域包括支援センターとの権利擁護等における協働事例はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明時に本人家族の希望を確認しながらかかりつけ医を決定している。かかりつけ医への受診は家族同行を基本として行っており、家族も協力的である。	○	かかりつけ医の連携も円滑に行えており、急変時においても協力医の迅速な対応(往診等)を頂き、指示を仰いでいる。又、協力医のご配慮により、隔週毎に訪問による診察がなされている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬意を持った言葉使いや対応に努めている。個人情報においては個人情報取扱い指針に基づき、厳重に管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からの生活支援の中で利用者が本人の思いや希望を率直に表出できるような雰囲気作りと援助技術に取り組んでいる。又本人の能力に応じた自己決定を尊重し、援助を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活スタイルに合わせ、自由な時間を過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や身だしなみ等は個々の生活習慣に合わせ本人の着たいものを着用されている。美容は家族の協力を得て本人が望む理美容店へ行ける。希望の理美容店の無い方に関しては地域の理容店の方に訪問して散髪を行って頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本体施設献立を原案とし、利用者の希望があればその都度献立を変更し提供している。本体調理師より週1回は提供されている食事を実際に味見を行いコメントをしてもらっている。一人ひとりの能力に合わせて調理の下ごしらえや片付けを職員と一緒にやっている。	利用者の状態に合わせて食事形態の工夫や自力摂取における補助具の活用等を行い、必要に応じて自立支援につながる介助を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者個々の嗜好品に関しては本人家族の意向に従い、生活の中の楽しみとして提供、支援している。	健康上又は疾患等を考慮し、家族や主治医との連携の基、量的な制限や内容の検討を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄状況を把握して、時間誘導や利用者の便意、尿意を伺いトイレ誘導を行うなどそれぞれの排泄のパターンに応じた援助を行っている。		排泄チェック表を基に、時間誘導や利用者の便意・尿意の確認を行い失禁をなくし、気持ち良く生活できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予め利用者からその日の入浴希望や時間をお聞きし、一人ひとりの希望に応じた入浴を実施している。また、入浴剤だけでなく菖蒲やかんきつ類を浮かべることで季節の入浴を楽しんで頂いている。		利用者の状態によっては主治医との連携の基、入浴時間、温度、皮膚に与える石鹸等の使用等アドバイスを頂きながら入浴を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や生活スタイル又その日の状態に合わせて安眠や休息の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族との会話の中で生活歴を把握し、生活の中で培われた得意な仕事、趣味等を見出し、本人が楽しみや生きがいと感ずることを支援している。又、本人の役割や楽しみが見出される様積極的に働きかけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自己管理されている利用者はおられないが、本人が希望される時は使用目的をお聞きしその都度預かり金を出してお金を使うことを支援している。高額な場合や不必要な物に関してはご家族へ連絡し確認、検討を行ってから購入している。		小口現金の管理においては、家族の了承を得て職員が行っており、面会時等に出納帳の確認をして頂き、使途・残高の確認と共に確認印をもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の希望や気分に応じて、散歩や買い物、自宅周辺へのドライブをその都度行い支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	野外活動等の外出支援を行う際には、事前に利用者の希望場所をお聞きし、出来るだけ希望に沿った外出支援を行っている。家族の協力による昼食等の外食又は自宅への外出支援を行っている。		日帰り旅行や一泊旅行等利用者の希望があれば家族と協力しながら、計画的に取り組んでいきたい。遠方よりの帰省者の方があるときなどは出来るだけ一緒に過ごせるようご家族へ働きかけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等においては、利用者の能力に応じて、自由にやり取りが出来るように支援している。必要な場合はFAX等も活用している。入居者の希望に応じ、電話を相手に取りつないでいる。	○	利用者へ手紙が来た場合は、本人の承諾を得て、利用者担当職員が利用者へ手紙を読んだり、遠方へはFAXを送っている。又、電話も職員が取りつなぎ本人に替わるようにして支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間においては特に制限はしておらず、居室やデイルームにゆったりと過ごして頂けるスペースを作っている。		必要に応じて和室を提供する場合もある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本体施設の運営方針に並び身体拘束は行わないケアに取り組んでいる。又、ケア会議やミーティングの中でも身体拘束に関わる内容を取り上げ、職員への意識付けと資質向上に努めている。	○	今後もケアの方法として取り組みたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関等日中は全て施錠は行っておらず開放している。ケア会議やミーティングの中でも具体的内容での解決方法を話し合っている。必要を感じたら、利用者本人の気分の転換を図る為閉じ込めるのではなく、職員がついて出て行くようにしている。	○	個人の行動を観察し、職員と一緒に外出を行うことで本人の満足感を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	毎朝の申し送りにより、その日の利用者個々の心身状況を職員全員が共有し、プライバシーに十分配慮しながら行動を見守っている。夜間は基本的に2時間おきに状態観察を行っている。		日中、夜間の心身状況と行動に注視し、記録をとって申し送りを行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	身体状況や活動状況における安全性を考慮し、必要な場合は本人家族へ説明を行い、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等へは常口頃から気配り、見守りを強化しており、場所を離れる時は職員間の連携を行っている。誤薬に対しては、各テーブルについている職員が責任を持ち服薬確認を行っている。利用者の状況に応じ介助バーや滑り止めマットを利用して事故防止に努めている。		事故発生時の提出書類を事例として職員で会議を行い、原因の究明と対策、予防再発防止に努めている。定期的な運営推進会議の中で事例の報告を行い、それに対する対策等共に検討したり説明を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルに沿って対応している。救急蘇生法・応急手当の訓練に関しては、法人全体の中で年1回実施しており職員も参加している。	○	職員全員が落ち着いて連絡、報告が出来るように対応マニュアルの充実を図り、模擬的に電話をかけての自主訓練等に取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地区消防団に当グループホームにて建物の構造(人がいる場所)や避難経路の確認を行い、災害時における対策を検討している。		地元区に区入りしており、地区消防団も極めて協力的で年末の夜警巡回も行って頂いている。年2回、同一敷地内の事業所と合同で避難誘導訓練、防火訓練等を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所説明時に家族に対して、利用者一人ひとりに起こり得るリスクに関して説明を行い同意を得ている。又そのリスクにおいては職員間でも共有し合い対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各勤務帯への申し送りで利用者一人ひとりの状態の報告を行い心身の変化時には注意深く観察をしている。又、毎朝、バイタルチェックを行い変化ある場合は迅速にかかりつけ医に状態報告し指導を仰ぐ等、医療機関と連携して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容は副作用等含めて、はすべての職員が理解している。服薬管理においては食事時の各テーブルに着く職員が責任を持って確認し、利用者の能力に応じて服薬支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを形態工夫して提供している。又必要に応じて管理栄養士に相談を行い、繊維質の多い食材を豊富に取り入れる等献立を工夫している。水分補給においては10時と3時、利用者個々の状況や要求に合わせて補給に努めている。	○	食事に関しては、ヨーグルトの提供と水分補給、繊維物の食材利用。運動療法として、個人の身体状況に合わせて毎日の体操やゲーム、天気の良い日は軽い散歩を行っている。今後は、畑での作業も取り入れて行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄(必要に合わせ介助)を行い、口腔内の清潔に努めている。次の食事、おやつ迄義歯の取り外しも行っている利用者もおられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量や水分摂取量をチェックし、状態を確認して必要カロリーや水分量の確保に努めている。利用者個々の摂取状況に応じた食事形体、量で提供すると共に、ペースに合わせた時間で提供し、必要に応じて介助をおこなっている。		利用者の要求されるものに関しては、家族、医師の了解を得ながら提供を行っている。希望されるメニューに関しては職員で検討した後出来る範囲で提供するようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎食時はもとより外出時の嗽や手洗いをし、インフルエンザ等の流行期には、全利用者及び全職員の予防接種を実施している。又、職員のマスク着用、面会者における対応感染症マニュアルに従った予防管理に取り組んでいる。	○	法人の全体勉強会の中で感染症について勉強会を行い、参加している。（外部講師：嘱託医）日常では、必要に合わせて本体看護師と連携を取っている。職員全員が感染症を理解し、周知できるように取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁、布巾等を毎夜、漂白剤につけ除菌消毒を行っている。食品に関しては、消費、賞味期限への注意を払い期限内の提供を行うと同時に食材の中心温度が高くなるように調理の工夫を行い食中毒の予防を行っている。	○	台所の清掃は使用後その都度行っている。食品は出来るだけ買いだめをしないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーで出入りのしやすい構造となっており、玄関に季節感を感じる花々や置物を飾って、明るい玄関の雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用空間における建物構造においては、明るくて温かく、暮らしやすさを基本にした構造となっている。デイルームやテーブルには季節の花や自分達で作った作品を置く等、季節感と生活感を醸し出すよう工夫している。		利用者個々の価値観や生活感に配慮した上で、共に生活することで孤独感を解消し、楽しくはりのある暮らしが続けていけるよう支援している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を工夫したり、天気の良い日はウッドデッキにイスやテーブルを置いて居場所作りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの写真や個人の作品などを飾られており、日頃からお部屋のレイアウトにおいては本人にとって一番居心地の良い環境となるように会話で確認しつつ、訴えがあれば家族とも検討して配置換え等もを行っている。	○	ご利用者の趣味や作品を飾った部屋作りを行っていききたい。ご家族へ馴染みのものを持ってきて頂く様に話している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、フローア、居室と時間を変えて窓の開閉を行い換気を行っている。フローアは利用者が居室へ居る時(主に朝方)居室は食事時などフローアに出る来られている時に窓の開放を行う。調理時には、必ず換気扇を使用している。		換気には徹底した配慮を行い実施している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造はバリアフリーの構造となっているが、デイルームを居室が囲む形となっているため、移動箇所の空間においては手すりと共に家具を活用し安全の確保と自立支援に努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレはドアの利用者の視点の高さに表示しており、台所やお風呂場は一目でわかるように暖簾を下げている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	南側の広いウッドデッキは日当たりも良く、観葉植物やテーブル・イスを置いて気分転換、団欒の場として活用している。建物の周りは緑豊かな農村地帯であり、田んぼや畑を眺めることによって季節感が感じられる。		事業所の環境整備に伴い、花壇や家庭菜園の畑を広くしてもらっている為、利用者の楽しみが増えるよう花々を植えたり、季節の野菜作りを一緒に行いながら生活支援していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービスとしての機能を果たすため、積極的に地域との関わりを今以上に築き上げ、理解と協力を求めながら地域福祉の向上に貢献していきたい。利用者個々の要望にもっと応えれ、希望に添った生活支援が出来るように取り組んでいる。